

新技術「水より製法」で和紙糸を開発

ジーンズやワーキングウエア など試作品が好評

備後撚糸(株) 福山市芦田町福田872
TEL 084・958・3355



光成社長

ジーンズやワーキングウエア、ニホーム、女性用のカーディガン、畳表。これらすべてが和紙糸を使って製品化された、と聞いて驚かない人はいないだろう。その糸を開発したのが、備後撚糸(株)だ。「文字通り



紙の糸。紙は水に弱い、という逆発想を原点に編み出した」と光成猛社長。景気回復の兆しがあるものの、繊維業界にはその気配がない中で「何か変わったことをしないと生き残れない」と六年前、開発に着手。“加工屋”の意地をかけて心血を注いだという。

同社は社名にある「撚糸」が主業務。撚糸とは単糸を二本以上合わせ、よりをかけた糸。繊維メーカーから受注する綿糸や合繊などの糸を撚糸・加工している。光成社長が加工屋と称す

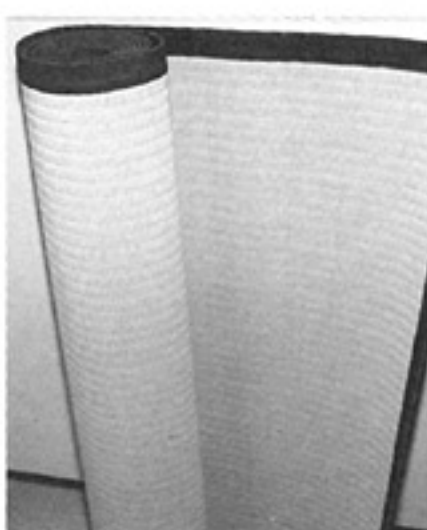


和紙糸でつくった製品

るゆえんだ。「糸によりをかける」と強度が増す」。和紙糸はその加工技術を活用して開発した。スタートは和紙を水に漬ける、というとんでもない発想だった。「紙でつくった糸は、けばが立つし、滑らかさがない。すぐ切れる」。いくら挑戦しても、その解決策は見出せなかった。ある時ヤケクソで「バケツの中に水を入れ、そこでよった」。これがヒントになり、「昨年の秋に独自の技術「水より製法」にたどり着いた。

「ワックスなどを配合した溶液に和紙を数時間漬け、水分を含んだ柔らかい状態にして撚糸機でよりをかける」と光成社長は同製法を説明。その溶液とそれ以上の詳しいことは企業秘密であり、特許出願中であるため、明かさない。

誰も考えつかない同製法で、解決できなかった「けば立ち」



畳表

を解消。滑らかで強度のある和紙糸をつくることに成功した。「ほかの繊維と比べて非常に軽く、綿糸の半分。通気性に優れ、熱遮断性があり、暖かいし、吸水性もある。しかも素材が紙のため、土に融合し、エコ商品になり得る」と光成社長は特徴を挙げる。

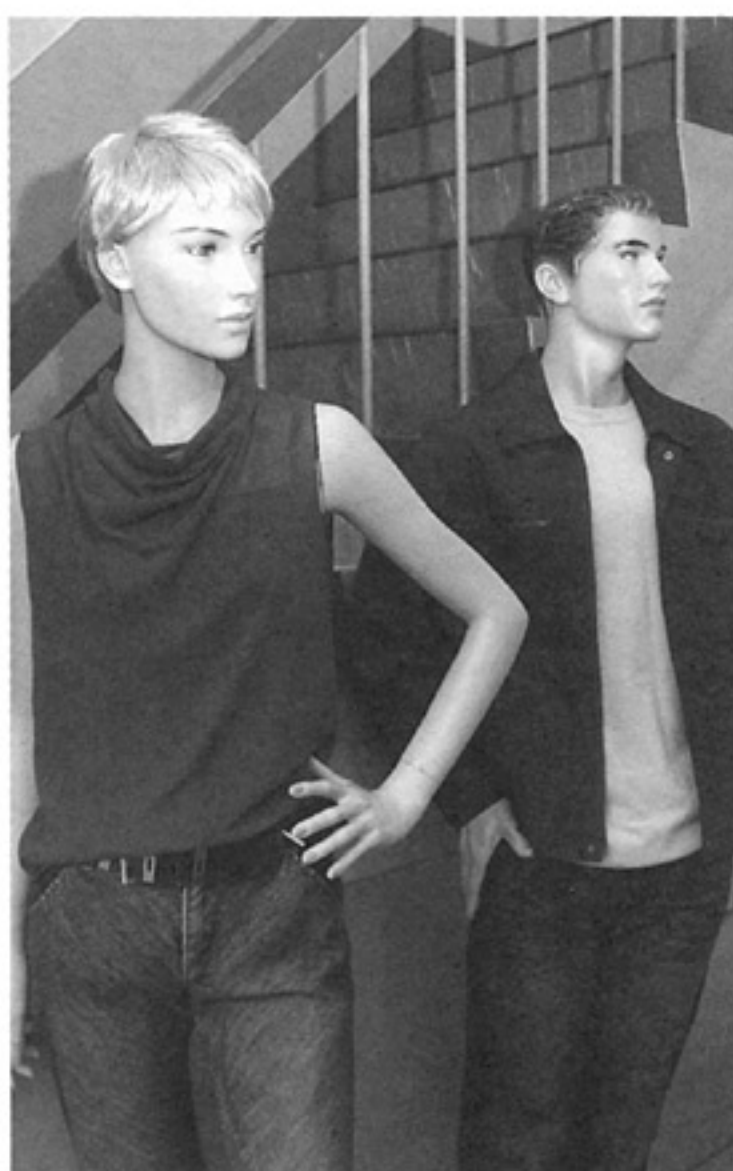
そうした特徴は各メーカーに頼んで、ジーンズやワーキングウエアなどの製品にしてもらってわかった。「特徴を生かしているいろんな製品がつけれる。タオルや畳表も製品化してもらった」と、光成社長は用途の広がりを期待。「和紙でつくった浴用ポデ

イータオルを一年半使っているが、今だに肌触りはいい」と話す。タオルはテレビなどで紹介され、早くも注目されている。昨年末、東京で開かれた展示会に出展。和紙糸でつくった数々の製品を展示した。それを見た外国人バイヤーは「ペーパーデニム」と驚嘆。説明を聞きながら興味深そうに見入っていたという。展示会ではアパレルメーカーをはじめ、ふとんメーカーなど約三〇社から引き合いがあった。

光成社長は近いうち、原反での販売を考えている。「原反を売るためには、それでつくった製品を着てもらったり、使っていただかないと、特徴、良さが理解してもらえないのでは」。今後、どうPRし、販路を開拓していくかが課題となる。が、苦難の末に生んだ“和紙糸”を世に問いたい、と意気込んでいる。



女性用カーディガン



素材は和紙糸